

授業改善サポーター養成講座

(研修1) 令和6年11月5日 (火) 13:00-16:00 福岡

(研修2) 令和6年11月26日 (火) 15:00-18:00 オンライン

(研修3) 令和6年12月17日 (火) 16:00-18:00 オンライン

講座の目標

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

講座の流れ

研修1 事前学習

- ① 掲示板での自己紹介
- ② 授業改善活動分析レポート
- ③ 授業シラバス案の改善提案
- ④ 事前教材（熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編）1モジュール

研修1(3時間, オンサイト, 11/5)

演授業改善サポータの基礎

・演習・ディスカッションを中心に

研修1 事後学習/ 研修2事前学習

- ① アクションプランと省察レポート
 - ② 授業改善サポート実施報告1
 - ③ 授業シラバス案の改善提案のアップデート
 - ④ 事前教材(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編)1モジュール
- *掲示板でのコミュニケーション

研修2(3時間, オンライン, 11/26)

授業改善サポータ業務の実践と省察(1)

・演習・ディスカッションを中心に

研修2 事後学習/ 研修3 事前学習

- ① アクションプランと省察レポート
 - ② 授業改善サポート実施報告2
 - ③ サポートツールの開発
 - ④ 事前教材(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編)1モジュール
- *掲示板でのコミュニケーション

研修3(3時間, オンライン, 12/17)

授業改善サポータ業務の実践と省察(2)

・演習・ディスカッションを中心に

研修3事後学習

掲示板でのコミュニケーション

- ① アクションプラン
 - ② 自己評価シート
- *掲示板でのコミュニケーション

講座の目標

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を旨とした施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

評価方法

- 授業改善サポーター業務報告2件、アクションプランと省察レポート 3 件を総合的に判断し評価する

研修3の流れ

研修3: 授業改善サポータとしての実践 スケジュール(同期:対面:3時間)

時間配分	内容	ポイント
15:00- 15:30	セッション1(グループ>全体): モジュール学習を深める	研修3事前課題④モジュールの学習、および、これからの教育に関する疑問点の洗い出し共有する
15:30- 15:45	・セッション2(グループ): 授業支援ツールの紹介準備	・研修3事前課題③開発したサポートツールの発表準備 ・Googleドキュメントを活用しグループ毎に発表内容と役割を整理する
15:55- 16:45	・セッション2(全体): 授業支援ツールの紹介	・各グループによる開発したサポートツールの発表 ・Googleドキュメントを活用しグループ毎に実践を整理する
16:55- 17:10	・セッション3(グループ): 実践報告の共有	・研修3事前課題②を使い、実際に行ったことを報告する
17:10- 17:20	・セッション3(全体): 実践報告共有のまとめ報告と 改善のための議論	・を全体に共有、改善方法を検討
17:20- 17:45	・セッション4(グループ):アク シヨンプランと省察、自己評価 シート項目に関する内省	・研修3事前課題① アクシヨンプランと省察レポートを共有し、良かった点と改善点の確認 自己評価シートを使い本講座での学びを振り返る ・自校組織への働きかけ、個人でのアクションを、(1)授業コンサルティング普及への施策、 (2)授業改善サポータ業務、(3)自身の知識・スキル開発の3項から、行動計画を立てる
17:45- 18:00	・まとめ	・本講座の学びの収穫など個人発表

セッション1

研修1からの学習の振り返り:
これからの教育について
・熊大教材

更なる学び： モジュールでの学習

- LMSのモジュール教材：<https://kyoten1a.cica.jp/moodle/?redirect=0>
- 研修3事前課題
- ④ 熊大教材で学んだことを共有
 - 新しい発見
 - 使ってみようと思うヒント
 - 今までもやっていた工夫
 - 良くわからなかった事、疑問点
 - モヤモヤする事 など

モジュールグループ

15分
+5分

15分で共有 + 5分でLMSの全体掲示板にグループの代表が
「どうしても聞きたい質問」を1つ記入し投稿

更なる学び： モジュールでの学習

- LMSのモジュール教材：<https://kyoten1a.cica.jp/moodle/?redirect=0>
- 研修3事前課題
- ④ 熊大教材で学んだことを共有
 - 新しい発見
 - 使ってみようと思うヒント
 - 今までもやっていた工夫
 - 良くわからなかった事、疑問点
 - モヤモヤする事 など

掲示板に投稿された質問に対し
講師が回答、コメントします

講師による回答

10分

休憩

次は、スタートです！

セッション2(グループ)

サポートツールの開発

開発したサポートツール 発表準備

グループ
15分

どのようなサポートツールを開発したのか
発表準備をする

- Googleドキュメントに記入する
- 検討事項: 道具の名称、開発した背景と目的、対象者、使用方法(いつ、どのように使うのか)、期待される効果、改善の余地
- ツールそのもの
- グループでの開発プロセスに関する感想(うまくいったこと、うまくいかなかったことなど)

Googleドキュメント：

セッション2（全体）

サポートツールの 発表

サポートツールの発表



- Googleフォームを活用し以下を発表
- 道具の名称、開発した背景と目的、対象者、使用方法(いつ、どのように使うのか)、期待される効果、改善の余地
- 開発したツールの紹介
- グループでの開発について

ツール/手段の種類

ツール/手段	説明	サポーターによる使用法	期待される効果
観察チェックリスト	授業の重要な要素を観察するための構造化されたリスト。	授業訪問時に、教授法を体系的に評価するために使用。	教授法の客観的評価を強化し、ターゲットとなるフィードバックと改善につながる。
フィードバックフォーム	建設的なフィードバックを提供するための標準化されたフォーム。	観察後に完成させ、構造化された、明確で実行可能なフィードバックを教師に提供。	明確なコミュニケーションを促進し、教授法のポジティブな変化を奨励する。
協力的計画ツール	Google DocsやTrelloのような共有計画のためのデジタルプラットフォーム。	LESSNプランの共同作成、リソースの共有、リアルタイムでの進捗追跡のために使用。	チームワークを促進し、教授目標の整合性を保ち、LESSNの質を向上させる。
プロフェッショナル開発ワークショップ	教授法やツールに関する構造化された研修セッション。	教育戦略、クラス管理などに関するワークショップの企画と実施。	教師のスキルを向上させ、新しい教育トレンドについて更新し、全体的な教授品質を向上させる。
ピアコーチングプログラム	教師がお互いを観察し、指導するシステム。	教師がコーチと学習者の役割を交換し、ベストプラクティスを共有し、相互支援を提供するセッションを促進する。	教師間のサポート学習環境を育成し、共有された専門的成長につながる。
教育技術ツール	インタラクティブホワイトボード、教育アプリ、eラーニングプラットフォームなどのツール。	授業に効果的に技術を統合する方法について教師を指導し、訓練する。	学生の関与を強化し、教授法を近代化する。
学生フィードバックシステム	授業に関する学生のフィードバックを収集するためのプラットフォーム。	学生のフィードバック調査を実施し、分析して、学生の視点からの洞察を得る。	学生の経験に基づいた貴重な洞察を提供し、教授法を彼らのニーズに合わせて調整する。
データ分析ソフトウェア	成績、出席状況、関与度などの教育データを分析するためのツール。	教師が改善のためのパターンや領域を特定するためにデータ分析ソフトウェアの使用を支援。	データに基づく意思決定により、教授効果の改善に対してターゲットを絞った取り組みを可能にする。
リソースライブラリ	教授材料、LESSNプラン、教育研究のコレクション。	LESSNプランの作成を支援し、触発するために幅広い教授リソースへのアクセスを提供。	アイデアや素材の豊富なソースを提供し、LESSNの多様性と深さを向上させる。
教室環境評価ツール	教室の物理的および心理的側面を評価するためのツール。	より学習に適した環境を作るために、教室のレイアウト、装飾、雰囲気の評価し、推奨を行う。	学生の集中と快適さをサポートする最適な学習環境を作り出す。

チェックリストの例(1/2)

一般的な授業用(合田, 2023)一部抜粋

カテゴリ	項目	詳細	自己評価	コメント	サポータ評価	コメント
授業計画と準備	明確に定義された学習目標	目標は具体的、測定可能、達成可能、関連性があり、時間的に制限されている。				
	教材の適切な準備	教材はよく準備されており、学習目標と一致している。				
	多様な教授リソースの組み込み	マルチメディア、物理的な補助具、ゲストスピーカーなど、様々なリソースを使用。				
指導の実施	説明の明瞭さと正確さ	説明は明確で簡潔、正確で、複雑な概念を理解しやすい。				
	エンゲージメントの高い教授方法の使用	グループワーク、実践的活動などのインタラクティブな方法を実施。				
	授業のペース配分	授業のペースは適切で、学生の理解と参加のための時間が確保されている。				

協調学習用(CoI)一部抜粋

試訳(合田ほか)

教授的存在感

デザインと体系化

教員は、授業の重要なトピックを明確に示した。

教員は、授業の重要なゴールを明確に示した。

教員は、授業の学習活動への参加の仕方を明確に指示した。

教員は、学習活動の重要な予定の時間や日程の枠組みを明確に示した。

ファシリテーション

学習に役立つ授業のトピックに関する意見が一致している領域や意見が不一致な領域を特定するのに、教員は支援してくれた。

思考を明確にするのに役立つ方法で、クラス全体が授業のトピックを理解出来るよう、教員は支援してくれた。

教員は、クラス全体を成果に結び付く会話に引き込み参加させ続けるように支援してくれた。

教員は、私が学習するのに役立つ方法で、クラス全体をタスクに従事し続けるように支援してくれた。

チェックリストの例(2/2)

IDチェックリスト(研修1で配布)

1. 学習時間の「長さ」でなく「到達度」で判定していますか
2. 自分のペースやスタイルで学習を進められる工夫がありますか
3. 研修の全体像を伝える工夫（スケジュール表・コースマップなど）がありますか
4. 9 教授事象を含む短い単位に分割されており、飽きさせない工夫がありますか
5. 教材のコンテンツのタイトルや見出しは何についての情報提示かが明らかですか
6. 誤りを気にせず試せる状況で練習する機会がありますか
7. 事後テストと同じレベルで仕上げの練習をする機会がありますか
8. 自律して学習を進めるための教育媒体や実施方法を使っていますか

熊大教授システム学部門科目デザイン編チェックリスト(研修1で配布)

モジュール	IDの要因	モジュール タイトル	アイデア
A	教授方略	認知的発達 を促す授業 方法	努力と真剣さを要求する授業
			しゃべるのは1割まで
			大事なことは3回はやる
			一人でできることは授業ではやらない
			個人→グループ→個人
B	評価方法	評価と単位 認定の見直し	パラレルセッション
			ループリックの前にチェックリスト
			多段階評価
			再提出可 まだ不十分
			LMSでテスト
C	学習目標	学習目標 の高度化	持ち込み可
			問題開示
			ポートフォリオ
			相互レビュー
			学問の領域を鳥瞰する
			歴史をさかのぼる
			現実場面での活用を試みる
			複数の視点から分析する
			自分でコミットする段階に誘う
			オリジナリティのある成果物を生み出す
			学び方を学ぶ目標を追加する

セッション3(グループ)

実践から改善へ

研修3事前課題②

授業改善サポート実施報告2

授業改善活動分析テンプレート

分類	活動名	誰が	誰に対して	実施する目的	期待される効果
組織的 活動	ステークホルダー会議	執行部	学校リーダー・教職員・学生	現状の理解と関係者の意見の収集	信頼とコミュニケーションの構築
	教育プログラム評価	執行部	学校リーダー・教職員	教育プログラムの強化と弱点の特定	改善のための具体的なエリアの特定
	戦略的計画	執行部	学校リーダー・教職員	改善計画の開発	長期的な改善戦略の策定
	プロフェッショナルデベロップメントワークショップ	教務部	教職員	教授スキルと評価方法の強化	教育の質と教職員の能力の向上
	実施サポート	コンサルタント/支援者	学校リーダー・教職員	提案された改善の実施支援	持続可能な改善の実施
個人的 活動	個別のシラバス相談	コンサルタント/支援者	教職員	シラバスの改善と教育目標の整合	カリキュラムのクオリティ向上
	授業観察	コンサルタント/支援者	教職員	教授効果の評価とフィードバック	教授法の改善と学習環境の向上

グループで 実践と関連する課題の共有

- Googleドキュメントを開く。
- グループの個人サマリーを共有する
- グループとして、以下を整理し、

最後の3分でフォームに記入

1. 実施したこと、しなかったこと
2. うまくいったこと、いかなかったこと(理由も含む)
3. 次の1ヶ月でしてみたいこと
4. あったらしいなと思うツール、開発してみたいツール

グループ
15分

(3分*4人+3分)

Google フォーム：

全体で 関連する課題への対応を検討

- Googleドキュメントの記入事項、
研修3事前課題② 授業改善サポート実施報告1を
共有

- メンバはどのような実践をしたのか
- 特徴的な取り組みはあるか
- 共通する問題、課題はあるか
- どのように改善できそうか

など



全体
10分

発表者以外の方は、Googleドキュメントに議論のメモを取ってください。

セッション4

アクションプランと省察、
自己評価シート項目

研修2から1ヶ月間の活動 振り返り

- 自己評価シートをダウンロードしてください。
- 研修3事前課題①アクションプランと省察を共有し、研修2から何をしたのか紹介する
 - うまくいった事
 - うまくいかなかった事
 - 次はこんなことをしてみたい
- 自己評価シートの項目について省察

グループ
25分
(6分/人 +1分)

自己評価シートの項目

各目標に対し、以下を考える

- 講座で達成しようとした目標と達成度
- 講座での学び、実施したこと
- 講座を通してできるようになったこと
- 目標達成のための困難点、疑問点など
- 次の目標、やるべきこと

研修の目標

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

まとめ

研修3後1週間でやること

- 研修3 事後学習

- ① アクションプランと省察レポート
- ② 自己評価シート

- LMSより提出してください

アクションプラン、自己評価レポート

- 本研修の振り返りをしながら、自校組織への働きかけについて、個人でのアクションを、(1)授業コンサルティング普及への施策、(2)授業改善サポート業務、(3)自身の知識・スキル開発の3項から、計画を立てる
- 本講座を振り返り、目標に対しどのような学びがあったのか自己評価する

講座の流れ

研修1 事前学習

- ① 掲示板での自己紹介
- ② 授業改善活動分析レポート
- ③ 授業シラバス案の改善提案
- ④ 熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編1モジュール

研修1(3時間, オンサイト, 11/10)

演授業改善サポータの基礎

・演習・ディスカッションを中心に

研修1 事後学習/ 研修2事前学習

- ① アクションプランと省察レポート
- ② 授業改善サポート実施報告1
- ③ 授業シラバス案の改善提案のアップデート
- ④ 熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編1モジュール

*掲示板でのコミュニケーション

研修2(3時間, オンライン, 12/11)

授業改善サポータ業務の実践と省察(1)

・演習・ディスカッションを中心に

研修2 事後学習/ 研修3 事前学習

- ① アクションプランと省察レポート
- ② 授業改善サポート実施報告2
- ③ サポートツールの開発(グループ)
- ④ 熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編1モジュール

*Discordでのコミュニケーション

研修3(3時間, オンライン, 1/15)

授業改善サポータ業務の実践と省察(2)

・演習・ディスカッションを中心に

研修3事後学習

掲示板でのコミュニケーション

- ① アクションプラン
- ② 自己評価シート

*掲示板でのコミュニケーション

研修の目標

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

A solid blue circle located in the top right corner of the slide.

個人
1分

個人から本講座での学びについて
意見や感想の共有

研修評価アンケート

- アンケートにアクセスし回答してください
- アンケートの記入が終わった方より
終了になります